FUKUOKA POLICE 70th ANNIVERSARY

F-CSNET通信かわら版

令和７年2月号

IPA「情報セキュリティ10大脅威2025」を決定

IPA（独立行政法人情報処理推進機構）は、２０２４年に発生した社会的に影響が大きかったと考えられる情報セキュリティにおける事案の中から、２０２５年の情報セキュリティ上の脅威となる候補を選出した「情報セキュリティ１０大脅威２０２５」を決定しました。

「組織」向け脅威として、1位の「ランサム攻撃による被害」（10年連続ランクイン）と2位の「サプライチェーンや委託先を狙った攻撃」は昨年と同じ順位であり、「システムの脆弱性を突いた攻撃」や「リモートワーク等の環境や仕組みを狙った攻撃」等の脅威が順位を上げました。

また、今回、「地政学的リスクに起因するサイバー攻撃」が初選出されました。

順位	「組織」向け脅威	昨年順位
1	ランサム攻撃による被害	1（→）
2	サプライチェーンや委託先を狙った攻撃	2（→）
3	システムの脆弱性を突いた攻撃 （「修正プログラムの公開前を狙う攻撃」及び 「脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加」）	5、7（↗）
4	内部不正による情報漏えい等	3（↘）
5	機密情報等を狙った標的型攻撃	4（↘）
6	リモートワーク等の環境や仕組みを狙った攻撃	9（↗）
7	地政学的リスク※1に起因するサイバー攻撃	初選出
8	分散型サービス妨害攻撃（DDos攻撃）	圏外（↗）
9	ビジネスメール詐欺	8（↘）
１０	不注意による情報漏えい等	6（↘）

※１：地政学的リスクとは「地理的条件に基づいた国や地域の政治や軍事に関わるリスク」のことであり、「地政学リスクに起因するサイバー攻撃」とは、以下のような脅威が該当します。
「MirrorFaceによるサイバー攻撃について（注意喚起）」（警察庁等）https://www.npa.go.jp/bureau/cyber/pdf/20250108_caution.pdf

順位が高いか低いかに関わらず、自組織が置かれている立場や環境を考慮して優先度を付け、適切な対応を取る必要があります。そのためには、継続してセキュリティ対策情報を収集の上、各脅威に対して、自組織の事業や体制にどのようなリスクがあるのか洗い出すことが重要となります。

情報セキュリティ10大脅威 2025に関する詳細な解説については、2月下旬以降、IPAのウェブサイトで公開予定ですので、是非ご確認ください。　【URL】 https://www.ipa.go.jp/pressrelease/2024/press20250130.html

◆　福岡県警察本部サイバー犯罪対策課では、最新のサイバー犯罪の手口や対策等を、ホームページやＸ（旧Twitter）に掲載していますのでぜひご覧ください。
◆　万一、被害に遭われた場合は、管轄警察署宛てご一報ください。

【X】　【HP】